

令和元年度 学力向上先進地域視察研修報告 (埼玉県・久喜市教育委員会、羽生市立羽生北小・羽生南中学校)

Eグループテーマ:「教育行政としての取組」

取組の実際

※各グループのテーマは、学力向上プランの5つの視点に基づいています。

◆埼玉県の学力向上の施策

『埼玉県学力・学習状況調査を中核としたPDCAの推進』

◇一人一人の学力の伸び(経年変化)に着目する

- ・県学力調査(小学校4学年から中学校3学年まで対象)の問題に難易度を設定し、学力のレベルを評価できるようにしている。
- ・非認知的能力や学習方略等のアンケート調査を実施し、学力の伸びとの相関を分析できるようにしている。

◇授業改善へつなぐ取組

- ・学力を伸ばしている教員が行っている取組を「よい取組事例集」としてまとめ、各学校に配布
- ・調査結果や指導等を一元化して引き継ぐカルテの作成・配布
- ・学力の基盤となる非認知的能力等を伸ばすための学級経営の重点化

◆久喜市教育委員会の施策 『本気・本樹の学力向上プロジェクト』

◇小・中9年間をより丁寧につなぐ

- ・KST(久喜市ステップアップテスト:小4から中3で毎月)の実施
→市教委で結果を取りまとめ、個票や復習プリントの作成をサポート

◇個の課題に寄り添う補習学習

- ・外部指導者による毎週1回の無料の補習学習「くき本樹塾」の実施

◆羽生市教育委員会の施策 『学力向上重点7』

◇学力向上R-PDCAサイクルの推進

- ・各種調査、テスト結果の分析後、全校を訪問し、授業改善の方向性を協議



【個人結果票の一部抜粋】



【羽生市グランドデザインの一部】

今後、各学校で実践していきたい取組

【教育事務所及び教育センター指導主事として】

- 全国学力・学習状況調査や福岡県学力調査を活用してPDCAを推進する。
 - ・児童生徒質問紙から学級経営の充実を見取る等、Pの前に実態把握(Research)の視点を意識
 - ・年間の大きなサイクルだけでなく、単元や学期ごとの小さなPDCAサイクルを意識
- 各教育事務所主催の研修や学校訪問等において、次の点を発信する。
 - ・非認知的能力や学習方略等を育成するための基盤となる学級経営を充実させるために、「鍛ほめ福岡メソッド」の奨励、推進
 - ・力量のある教員を抽出し、効果のある取組を事例集として取りまとめる。

【先進地域視察研修を通して実感したこと】

- 児童生徒の学力の伸びを適切に分析するサポートを行い、効果が見られた取組についての情報を収集し発信することが大切である。
- 児童生徒に何が身につくかを明確にし、個に応じてどのような支援を行うかを計画した授業を推進することが大切である。

共通テーマ「授業づくりについて」

取組の実際

◆久喜市の授業づくり

◇授業構想時の思考ルートを明確化する工夫

- ・単元構想シート、授業構想シートの活用

＜単元構想シートの作成手順＞

- ①単元終了後の目指す児童生徒の姿を具体化
- ②単元がもつ「知の構造」を分析
- ③問題解決のプロセスを計画

※単元構想後、授業構想シートを使って、児童生徒の思考の流れに基づき本時授業を構想

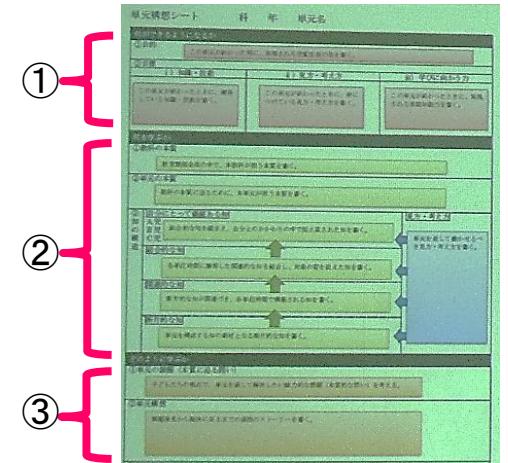
◆羽生市の授業づくり

◇個別の対応を図る工夫

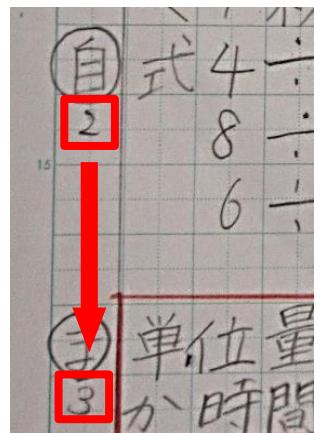
- ・授業の自力活動やまとめの段階に、児童生徒が自分の状況を数値化(1:分からない 2:自力で解ける 3:説明できる 3+:3以上)
→教師は、授業中につまずいている児童生徒を把握できる。
→学習の流れの中で、児童生徒の理解度を把握し、授業を工夫して進めることができる。(個別対応や集団解決など)

◇授業者の工夫の効果を確認する研究授業の協議会

- ・学力層別の分析
→学力層に応じた手立ての検証を行うことができる。
→参観する児童生徒を割り振り、参観者は、一単位時間における担当した児童生徒の反応を記録する。



【単元構想シート】



【自己評価したノート】

今後、各学校で実践していきたい取組

【教育事務所及び教育センター指導主事として】

- 基本研修や校内研修等において指導・助言をする際、次の点を積極的に取り入れる。
 - ・全国学力・学習状況調査等から明らかになった課題を基にして、各教科で目指す児童生徒の姿を具体化するよう促す。
 - ・授業の展開段階や終末段階に、児童生徒が学習の理解度を振り返ることができる場を設定するなどの活動を紹介し、児童生徒の評価を授業改善につなぐことの重要性を伝える。
 - ・児童生徒の学びの変容から教師の手立ての有効性を確かめる研究授業の協議会を進める。